2011年5月15日データセッション要旨　（細田由利、デビッド・アリン）

今回提供するデータは横浜市の某公立小学校における英語活動授業の相互行為である。2011年度から５，６年生を対象として英語活動が全国的に必修化されたが、それに先駆けて当該小学校では2007年度2学期から全学年対象に英語活動の実施を決定した。しかしながら、実施に当たっては英語を教えられる教員が不足することから、地元の大学に英語専攻の大学生を英語教育サポーターとして派遣することを依頼した。その依頼を受け、大学側では10名弱の大学生を派遣し、その結果、各英語活動教室に1～3名の英語教育サポーターが入って担任教諭や外国人指導助手と共に授業を進めることになった。今回提供するのは当該小学校が英語活動を始めて約10ヶ月経過した時点でのデータである。相互行為参与者は、4年生児童（約30名）、担任教諭、外国人指導助手、及び大学生サポーター1名である。